

第3章 現状分析

1 少子化の進行

2 少子化の要因

3 就労状況と子育て

4 保育の状況

5 子ども・子育てを
めぐる問題の動向

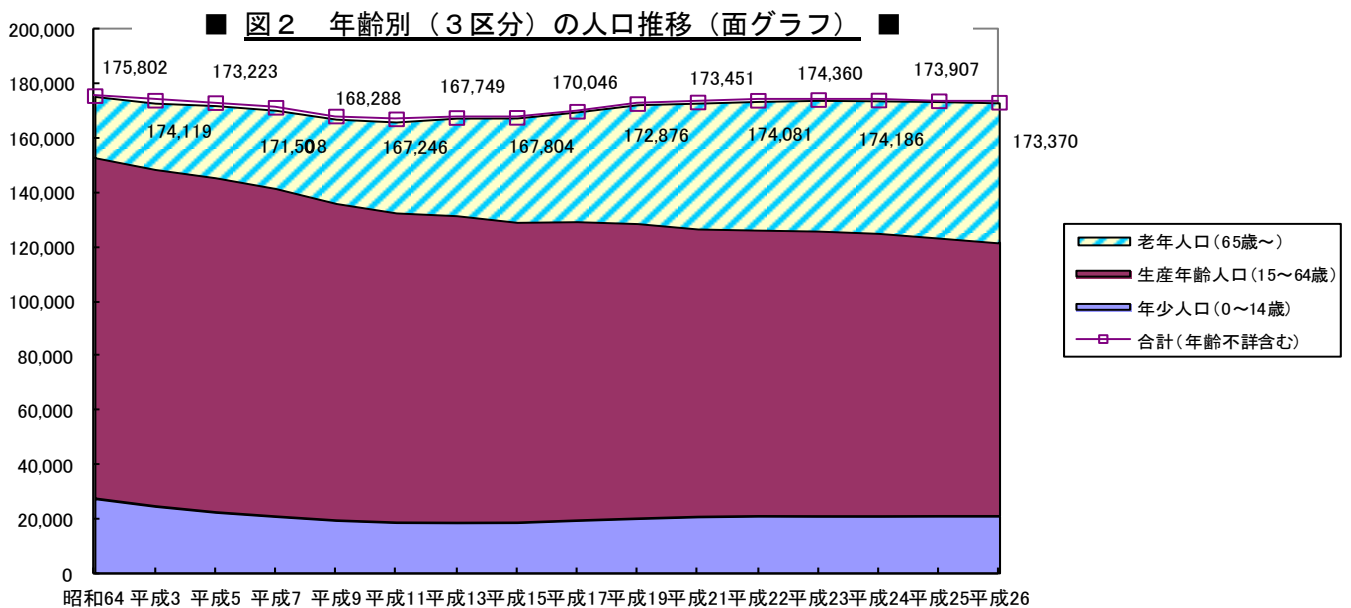
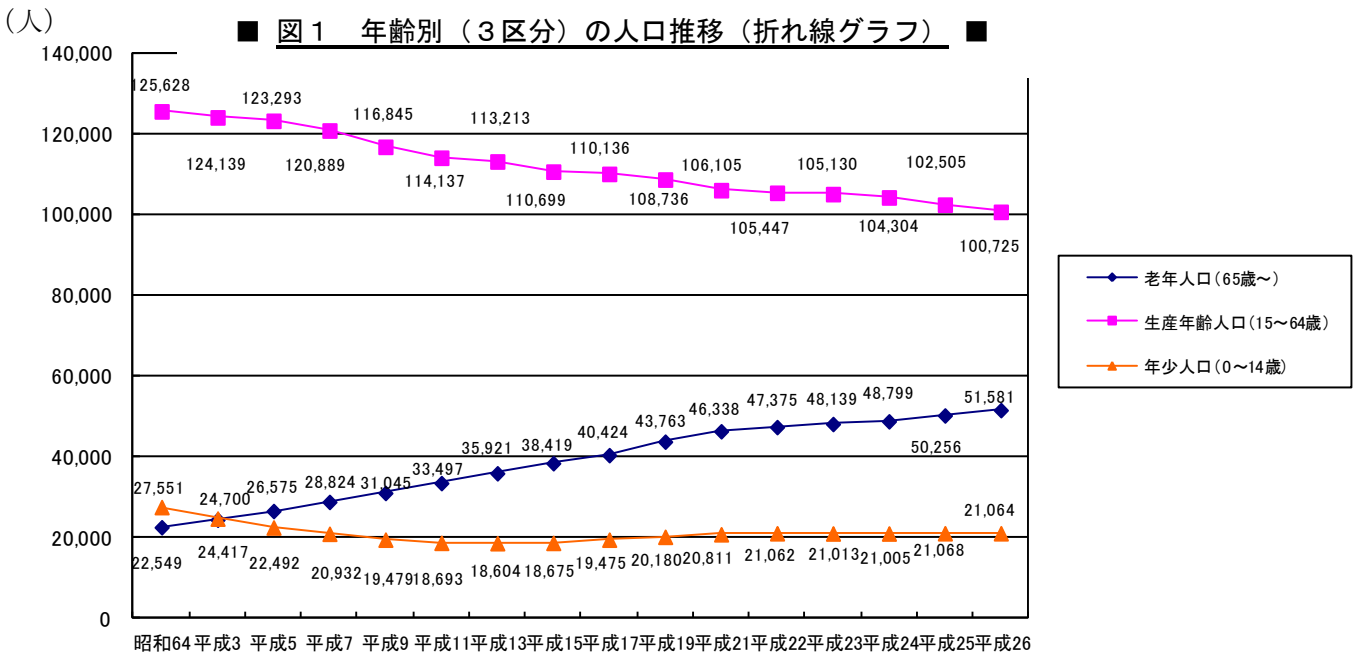
第3章 現状分析

1 少子化の進行

(1) 年齢別（3区分）人口の推移（鎌倉市）

鎌倉市の人口は昭和64年以降減少が続きましたが、平成11年以降増加に転じ、平成17年に平成7年以来の17万人を超えました。

0歳から14歳までの年少人口は、平成4年に老年人口（65歳以上）を下回りましたが、近年、子育て世代の転入などの影響により、年少人口も若干増加傾向にあります。



資料：神奈川県年齢別人口統計調査結果
各年1月1日現在

(2) 地域別児童人口（0～14歳）の推移（鎌倉・腰越・深沢・大船・玉縄地域）

児童人口は平成25年度まで増加しておりましたが、平成26年度は減少し、なかでも大船地域以外が減少傾向となっています。

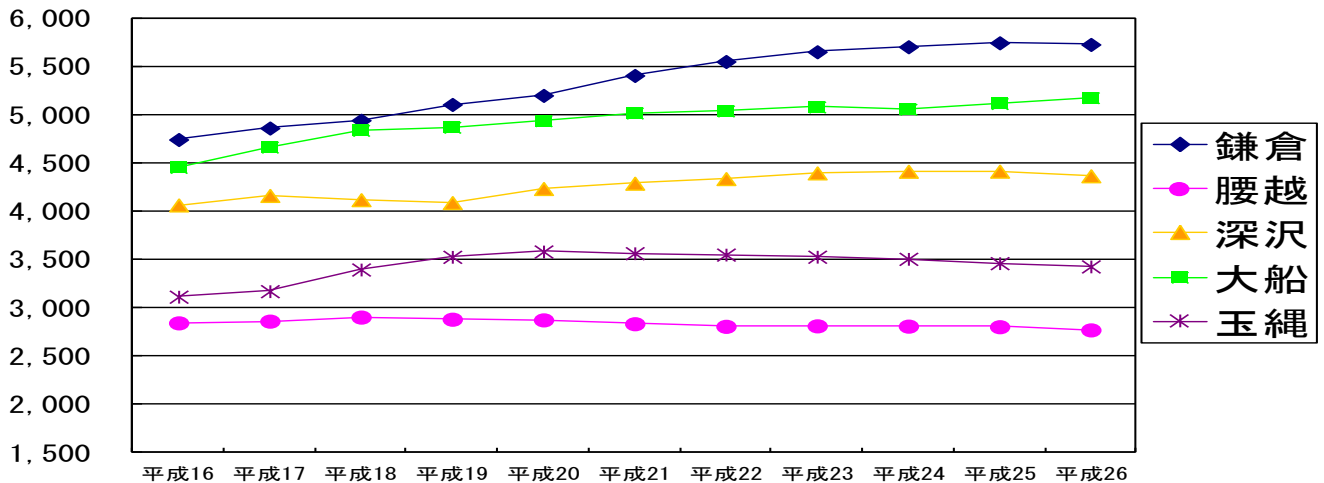
■ 表1 地域別児童人口（0～14歳）の推移 ■ (人)

資料：住民基本台帳
各年4月1日現在

	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
鎌倉	4,750	4,869	4,950	5,114	5,208	5,415	5,560	5,661	5,713	5,754	5,737
腰越	2,846	2,864	2,906	2,884	2,877	2,837	2,810	2,815	2,812	2,806	2,773
深沢	4,070	4,169	4,125	4,095	4,241	4,296	4,344	4,403	4,420	4,421	4,373
大船	4,460	4,671	4,845	4,877	4,945	5,025	5,047	5,088	5,065	5,123	5,184
玉縄	3,118	3,175	3,400	3,532	3,587	3,569	3,555	3,533	3,511	3,466	3,432
合計	19,244	19,748	20,226	20,502	20,858	21,142	21,316	21,500	21,521	21,570	21,499

■ 図3 地域別児童人口（0～14歳）の推移 ■

(人)

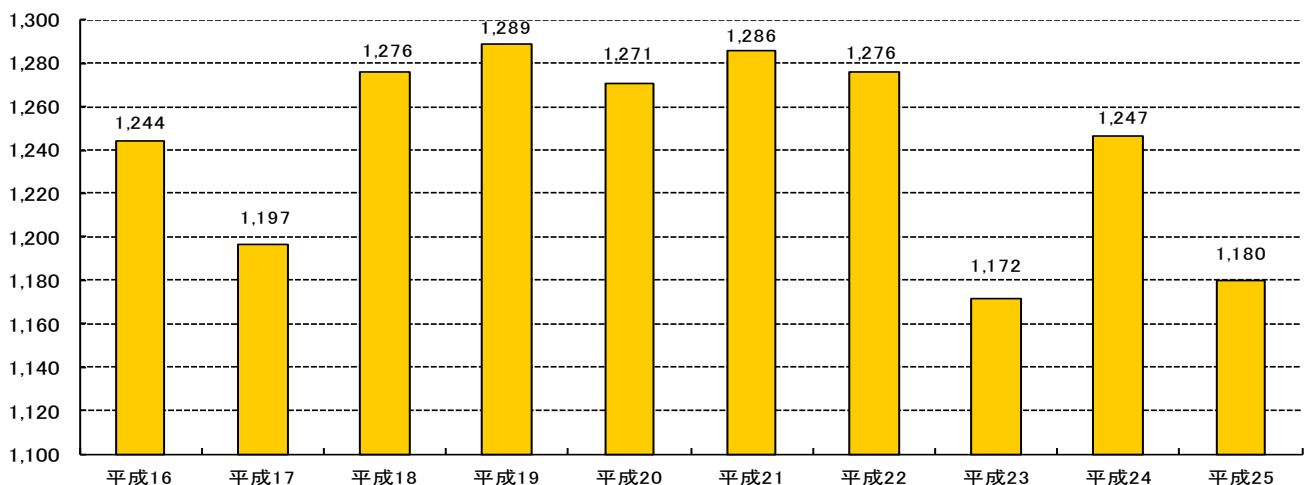


(3) 出生数の推移（鎌倉市）

鎌倉市の出生数は、平成18年から1,270人以上で推移しておりましたが、平成23年は1,172人、平成25年は1,180人と減少しました。

(人)

■ 図4 出生数の推移 ■

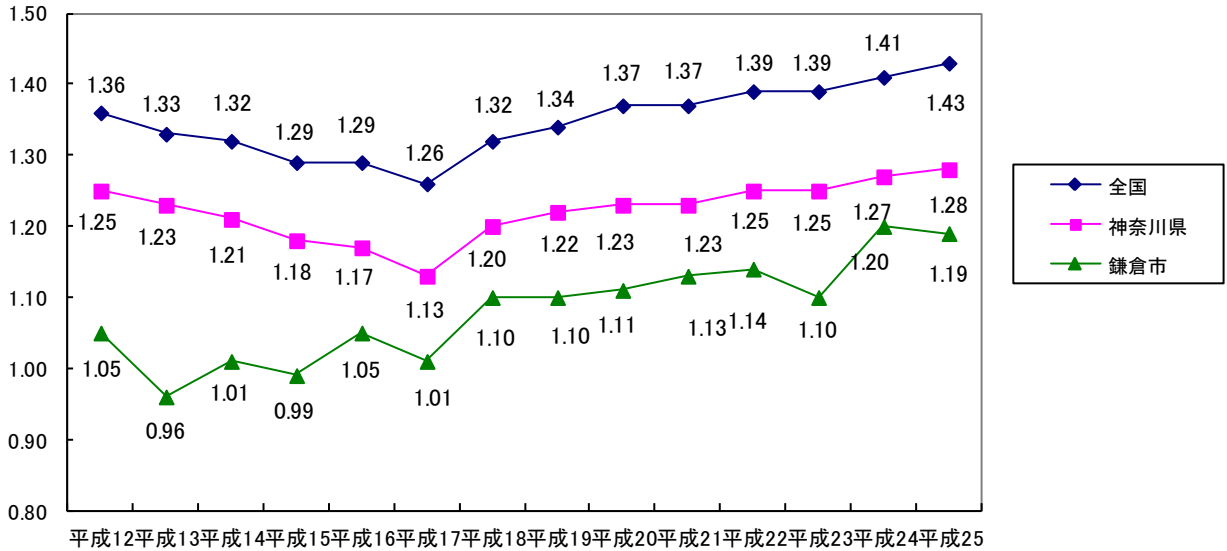


資料：神奈川県衛生統計年報

(4) 合計特殊出生率の推移（全国・県・鎌倉市）

鎌倉市の合計特殊出生率は、全国や県を下回って推移していますが、平成18年以降は上昇傾向にあり、平成23年は1.10に下がったものの、平成25年は1.19となりました。

■ 図5 合計特殊出生率の推移 ■



資料：(全国) 厚生労働省「人口動態統計」
(神奈川県・鎌倉市) 神奈川県衛生統計年報

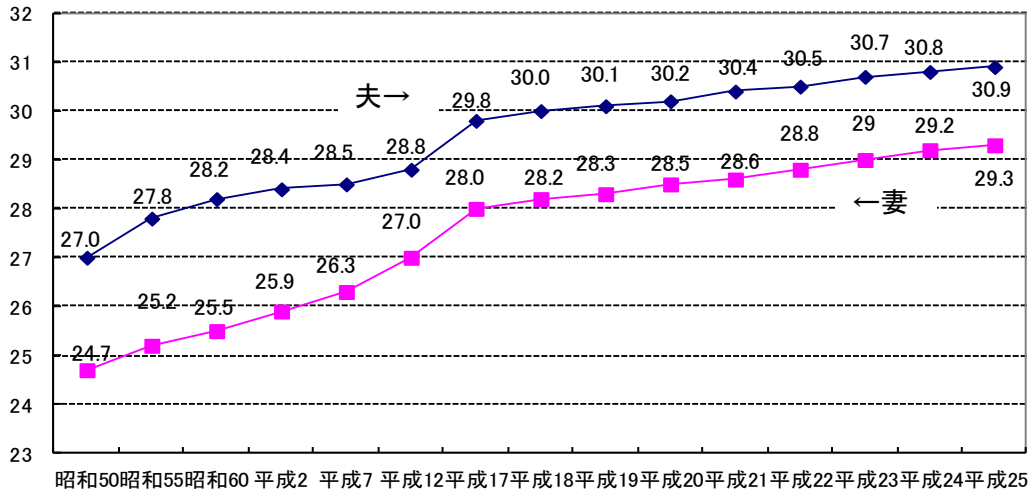
2 少子化の要因

(1) 晩婚化（平均初婚年齢の推移）（全国）

平均初婚年齢は、平成25年で、夫が30.9歳（対前年比0.1歳上昇）、妻が29.3歳（対前年比0.1歳上昇）と上昇傾向を続けており、結婚年齢が高くなる晩婚化が一層進んでいます。

■ 図6 平均初婚年齢の推移 ■

(歳)



※同居し届け出た時の年齢。
資料：厚生労働省「人口動態統計」

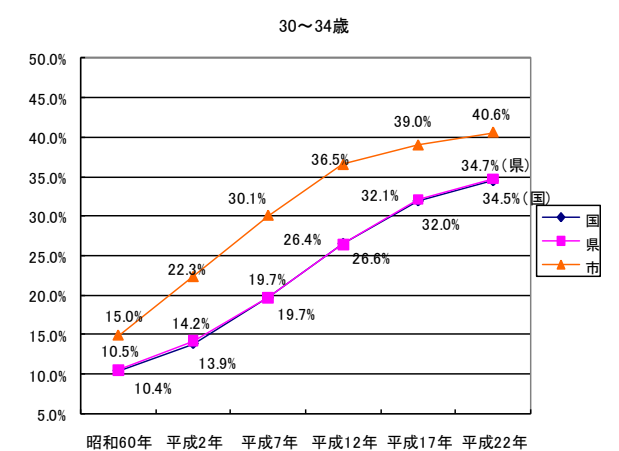
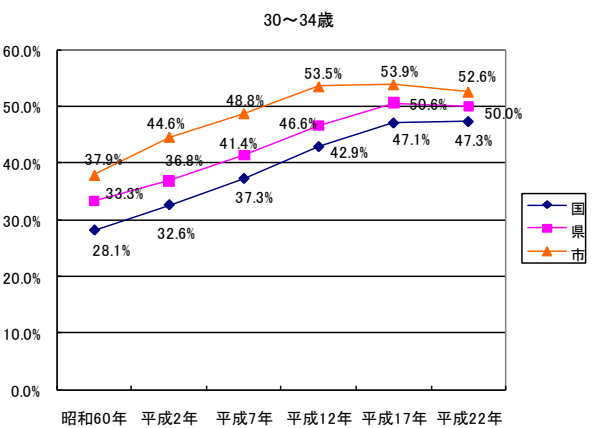
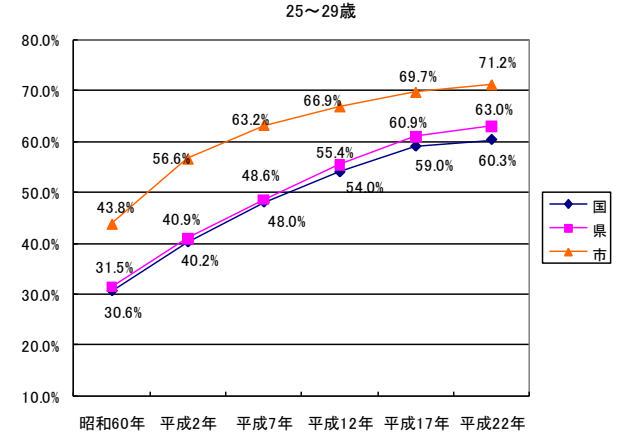
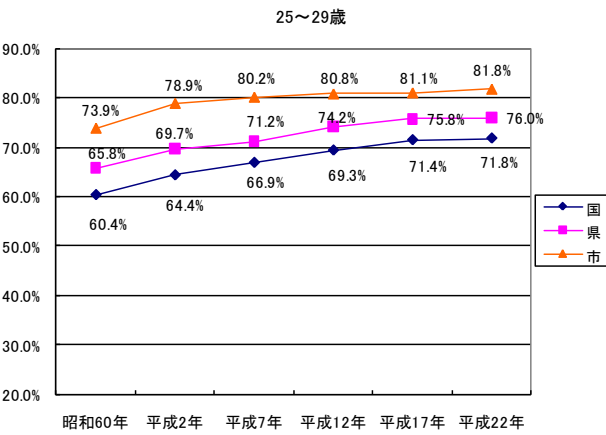
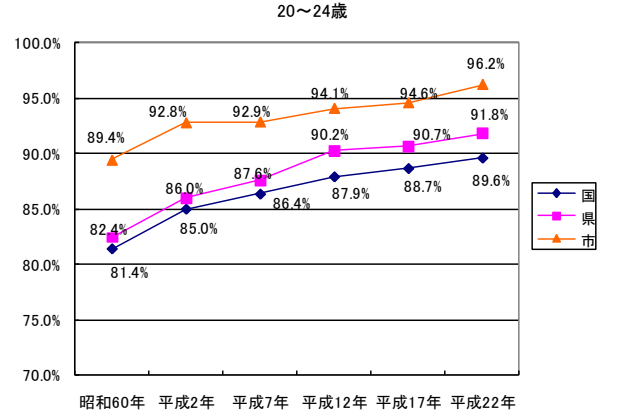
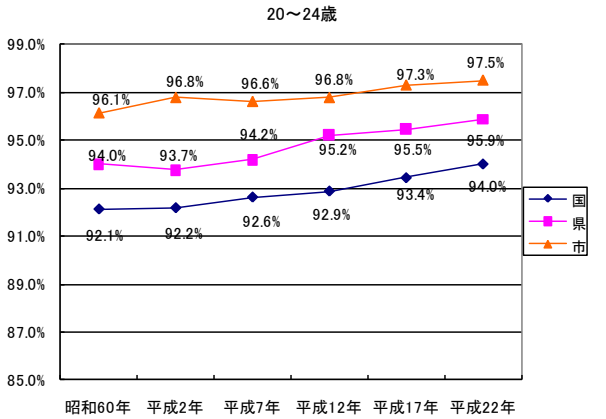
(2) 未婚化（未婚率の推移）（全国・県・鎌倉市）

年齢別の未婚率をみると、男女とも上昇傾向にあり、晩婚化が進行しています。特に女性の30～34歳で、顕著に未婚率の上昇がみられます。また、鎌倉市の未婚率は全国、県を大きく上回っています。

■ 図7 未婚率の推移 ■

<男性>

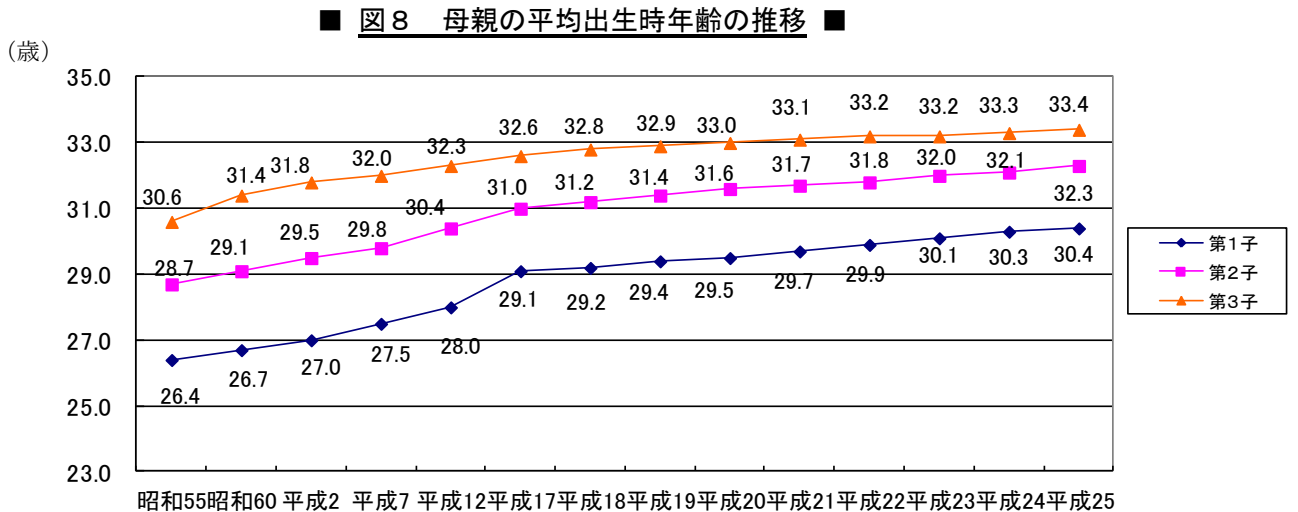
<女性>



〔資料：国勢調査〕

(3) 晩産化（母親の平均出生時年齢の推移）（全国）

晩婚化の傾向に伴い、出生したときの母親の年齢も遅くなる晩産化が同時に進んでいます。昭和55年には、第1子出生時の母親の平均年齢は26.4歳でしたが、平成25年には30.4歳と4歳上昇し、その結果、第2子、第3子出生時の平均年齢も上昇しています。高年齢になると出産を控える傾向にあるため、晩産化は少子化の一因とされています。

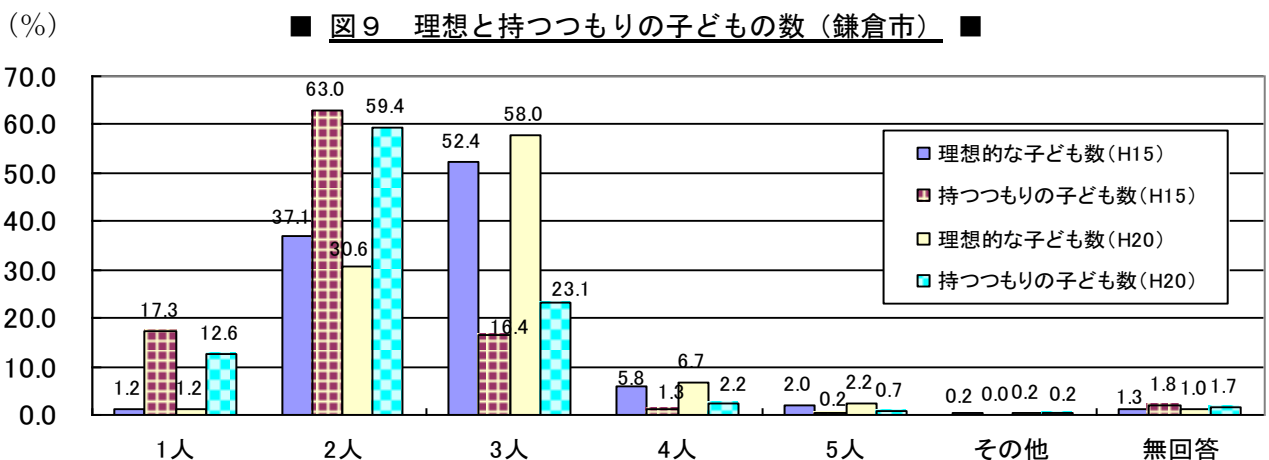


〔資料：厚生労働省「人口動態統計」〕

(4) 理想的な子どもの数と持つつもりの子どもの数の違い（鎌倉市）

理想とする子どもの数に対し、実際に予定している子どもの数は常に下回っており、夫婦の出産に関する希望がかなえられていない現状がわかります。

しかし、鎌倉市の平成15年度と平成20年度の就学前児童を持つ保護者への調査を比較すると、理想的な子どもの数も持つつもりの子どもの数も「3人以上」と答える人の割合が増加し、出産に関する希望や予定が上向いてきています。

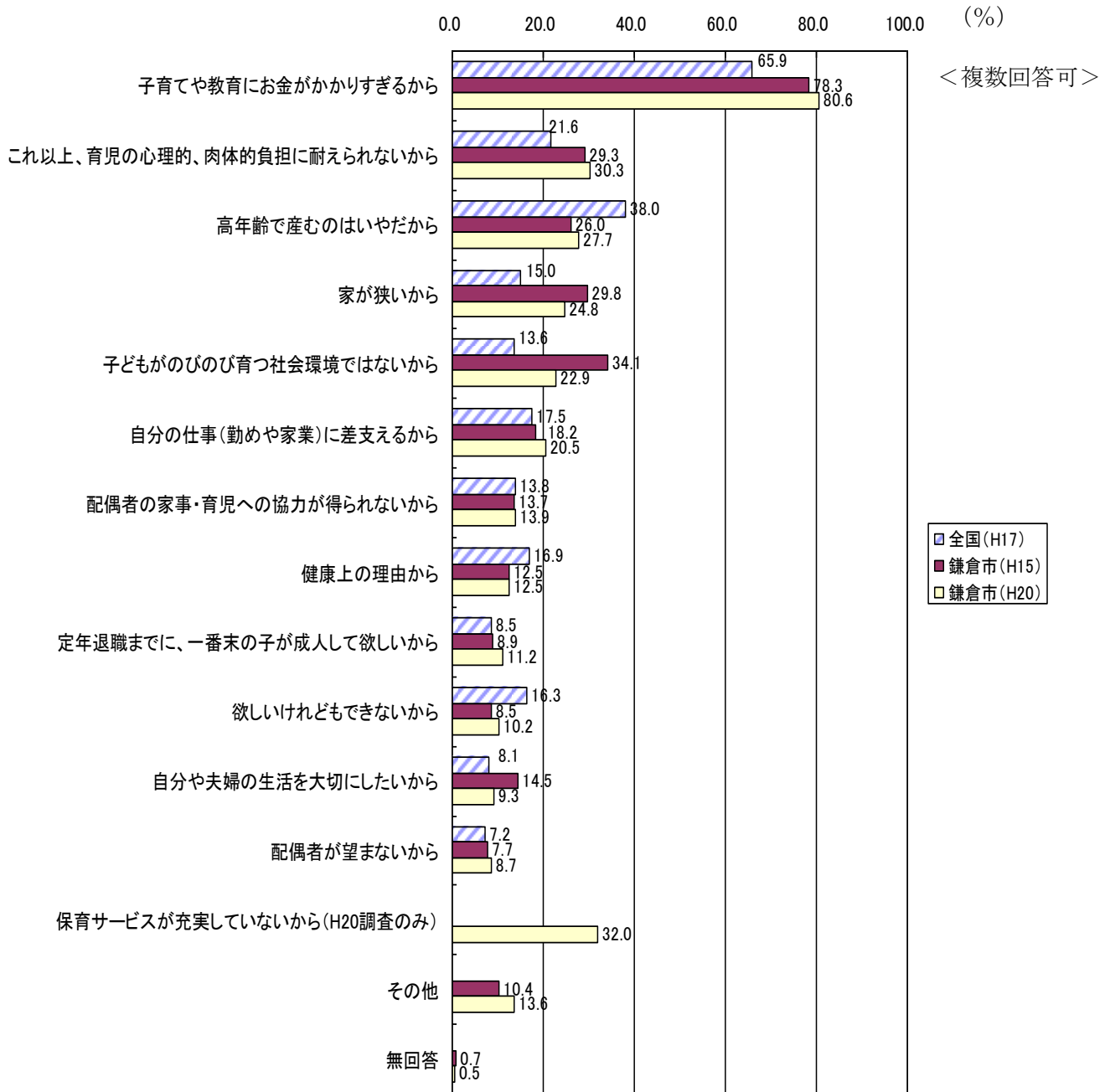


〔資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成15年度）
「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成20年度）〕

(5) 子どもが理想より少ない理由（全国・鎌倉市）

持つつもりの子どもの数が理想の子どもの数より少ない人に、その理由を聞くと「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が全国、鎌倉市ともに最も多い回答となっており、特に平成20年度の鎌倉市の調査では8割超の人が経済的負担を理由に挙げています。

■ 図10 理想の数の子どもを持つとしない理由 ■

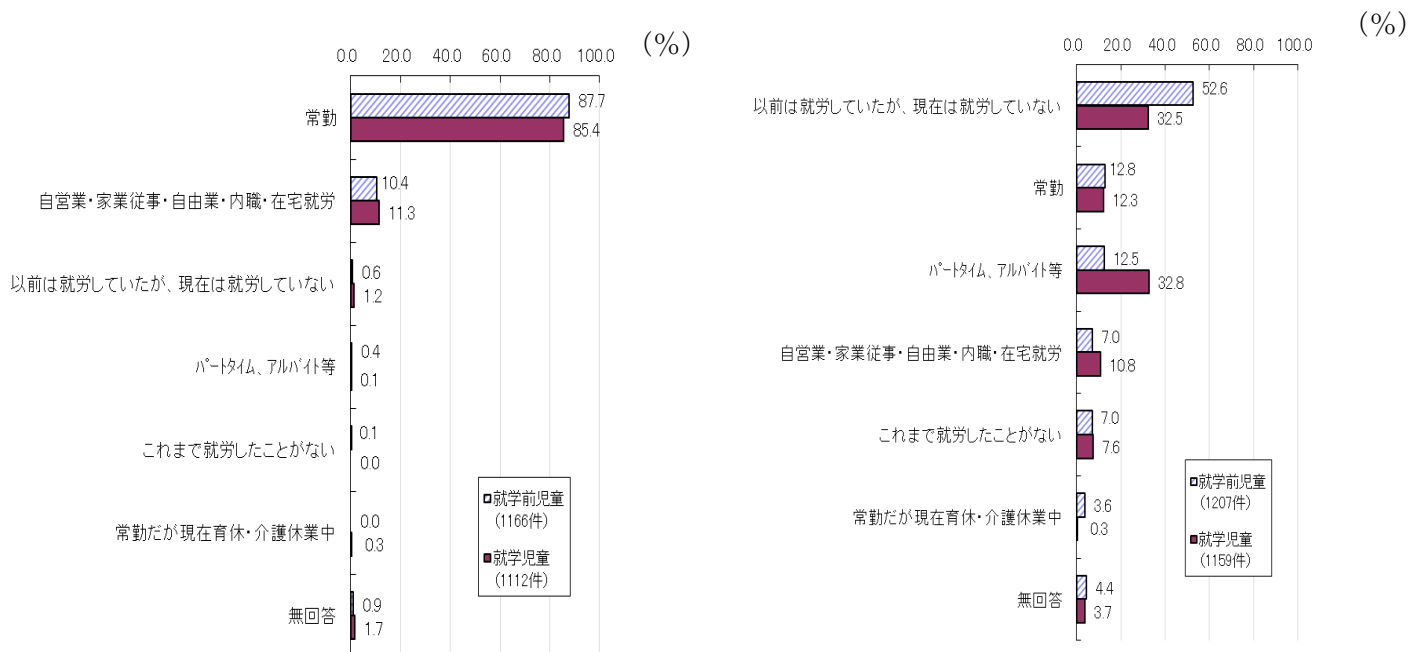


資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成15年度）
「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成20年度）
国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査」（平成17年）
調査客体…全国の25歳以上50歳未満の妻で予定子ども数が理想子ども数より少ない者に対する調査

3 就労状況と子育て

(1) 父親、母親の就労状況（鎌倉市）

父親の就労状況を見ると「常勤」の割合が約9割となっています。母親の就労状況を見ると、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が最も高く、結婚や出産を期に離職したことが伺えます。また就学児童では「パートタイム、アルバイト等」の割合が高く、離職後、再就職をすることの困難さが伺えます。



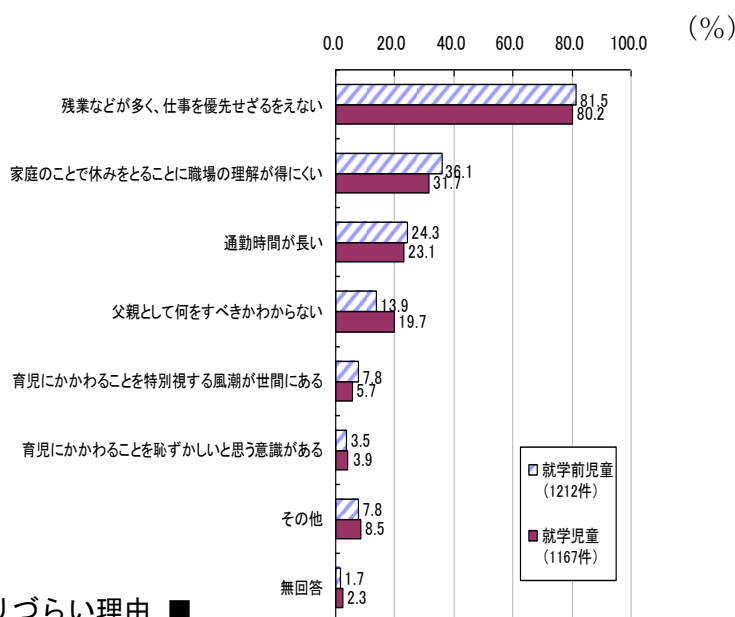
■ 図11 父親の就労状況 ■

■ 図12 母親の就労状況 ■

〔 資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査」(平成20年度) 〕

(2) 父親が子育てにかかわりづらい理由（鎌倉市）

父親が子育てにかかわりづらい理由についてみると、「残業などが多く、仕事を優先せざるをえない」の割合が約8割となっており、仕事と家庭生活の両立ができていないことが伺えます。

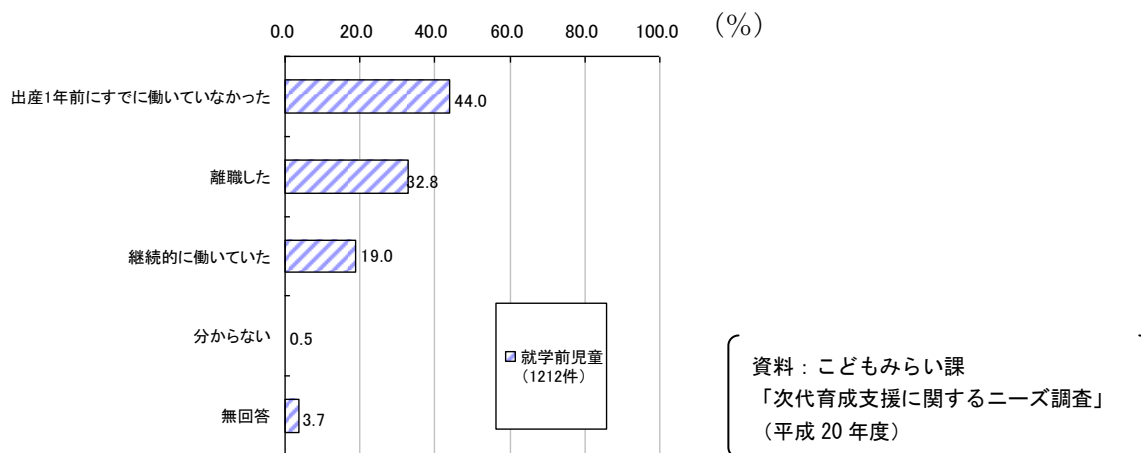


■ 図13 父親が子育てにかかわりづらい理由 ■

〔 資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査」(平成20年度) 〕

(3) 母親の出産による離職状況（鎌倉市）

母親の出産による離職状況をみると、「継続的に働いた」の割合が 19.0%となっており、約 8 割の人が出産に伴い離職していたことが分かります。



■ 図14 母親の出産による離職状況 ■

4 保育の状況

(1) 保育所等の入所児童数等（鎌倉市）

平成27年4月現在、鎌倉市には6つの公立保育所と16の私立保育所、3つの認定こども園と平成27年から創設された3つの地域型保育事業（※）があります。入所児童数は平成26年度の2,241人から平成27年度の2,403人と増加しました。

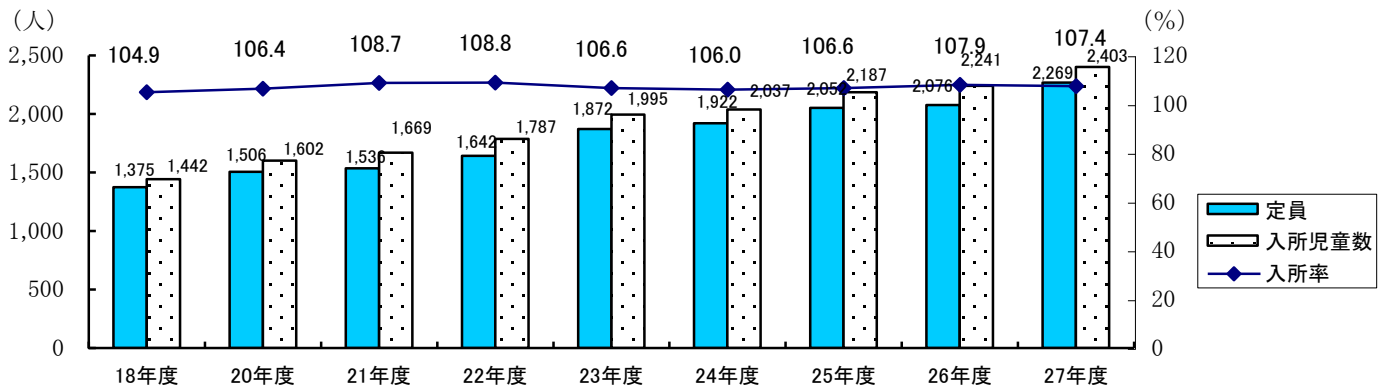
※地域型保育事業：家庭的保育事業、小規模保育事業、事業所内保育事業、居宅訪問型事業の4つの事業
鎌倉市では家庭的保育事業が1つと小規模保育事業が2つあります。

■ 表2 認可保育所等の定員数・入所児童数等の推移（受託児含） ■

区 分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
保育所等施設数	16	17	17	17	19	20	22	22	28
定員数（人）	1,411	1,506	1,536	1,642	1,872	1,922	2,052	2,076	2,269
入所児童数（人）	1,484	1,602	1,669	1,787	1,995	2,037	2,187	2,241	2,403
0～5歳人口（人）	8,072	8,094	8,121	8,120	8,185	8,083	8,062	7,936	7,773
入所率（%）	105.2	106.4	108.7	108.8	106.6	106.0	106.6	107.9	105.9
利用率（%）	18.4	19.8	20.6	22.0	24.4	25.2	27.1	28.2	30.9

※入所率は、定員に占める入所児童数の比率を示し、利用率は、0～5歳の人口に占める入所児童数の比率を示す。
資料：保育課 各年度4月1日現在

■ 図15 認可保育所等の定員数・入所児童数等の推移 ■



(2) 保育所等利用率の推移 (鎌倉市)

保育所等の利用率は、平成18年度の17.9%と比較すると、平成27年度では、30.9%となっており、13ポイント増加しています。

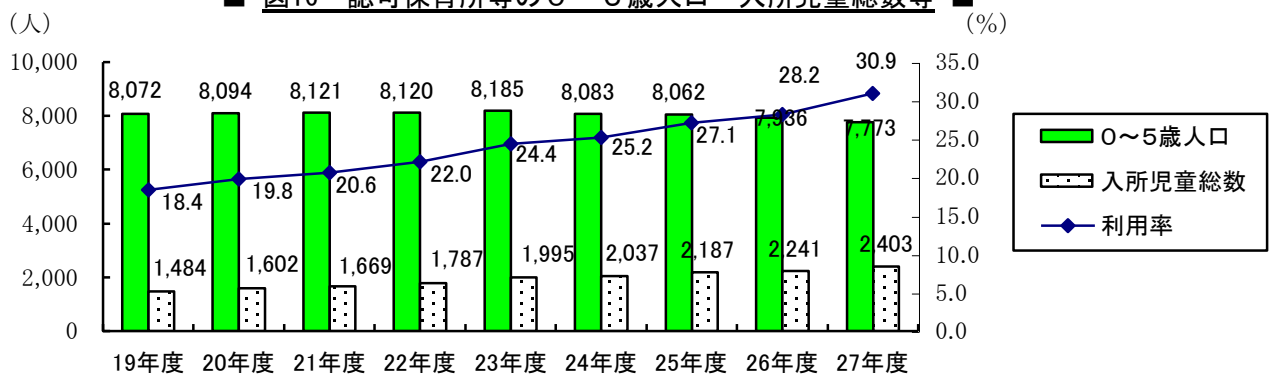
■ 表3 認可保育所等の0～5歳人口・入所児童総数等 (受託児含) ■

(単位：人、%)

区分	0～5歳人口	入所児童総数	利用率
平成18年度	8,042	1,442	17.9
平成19年度	8,072	1,484	18.4
平成20年度	8,094	1,602	19.8
平成21年度	8,121	1,669	20.6
平成22年度	8,120	1,787	22.0
平成23年度	8,185	1,995	24.4
平成24年度	8,083	2,037	25.2
平成25年度	8,062	2,187	27.1
平成26年度	7,936	2,241	28.2
平成27年度	7,773	2,403	30.9

[資料：保育課 各年度4月1日現在]

■ 図16 認可保育所等の0～5歳人口・入所児童総数等 ■



(3) 待機児童数の推移（鎌倉市）

保育待機児童数については、平成27年度は50人となり平成26年度の55人から5人下回りました。年齢区分では1歳児における待機児童数が昨年度と比べ減少しています。

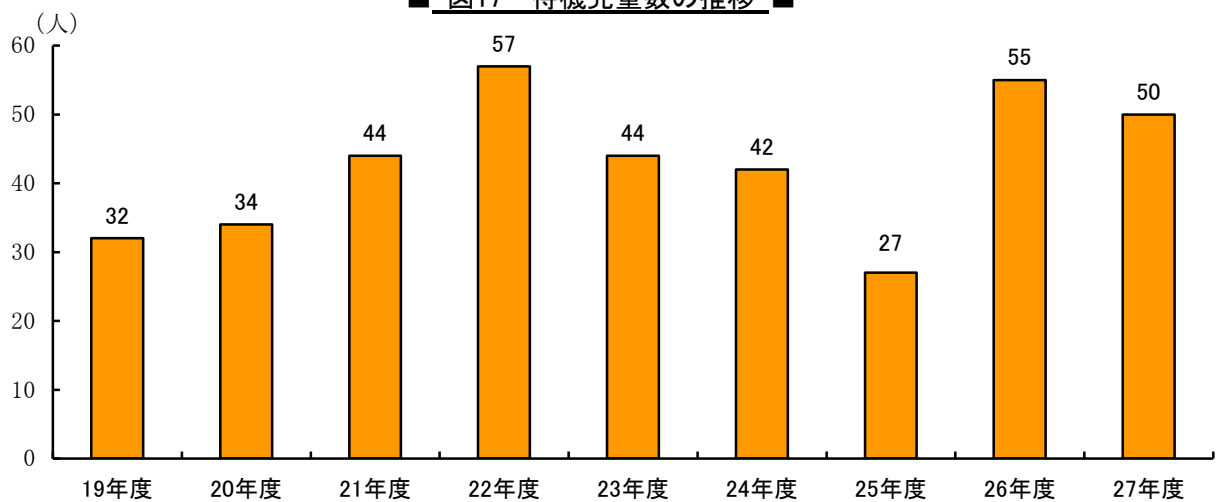
■ 表4 年齢区分別保育待機児童数（市） ■

（単位：人）

区 分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
0 歳	3	3	9	13	7	0	2	8	3
1 歳	9	15	16	28	22	22	7	32	18
2 歳	15	15	15	12	7	16	11	7	23
3 歳	5	1	4	3	7	3	2	7	2
4 歳以上	0	0	0	1	1	1	5	1	4
合 計	32	34	44	57	44	42	27	55	50

〔 資料：保育課 各年度4月1日現在 〕

■ 図17 待機児童数の推移 ■



(4) 幼稚園の児童総数（鎌倉市）

鎌倉市には、幼稚園（認定こども園の幼稚園に係る部分含む）が23園（私立のみ）あり、鎌倉市在住の在園児童数は2,298人となっています。

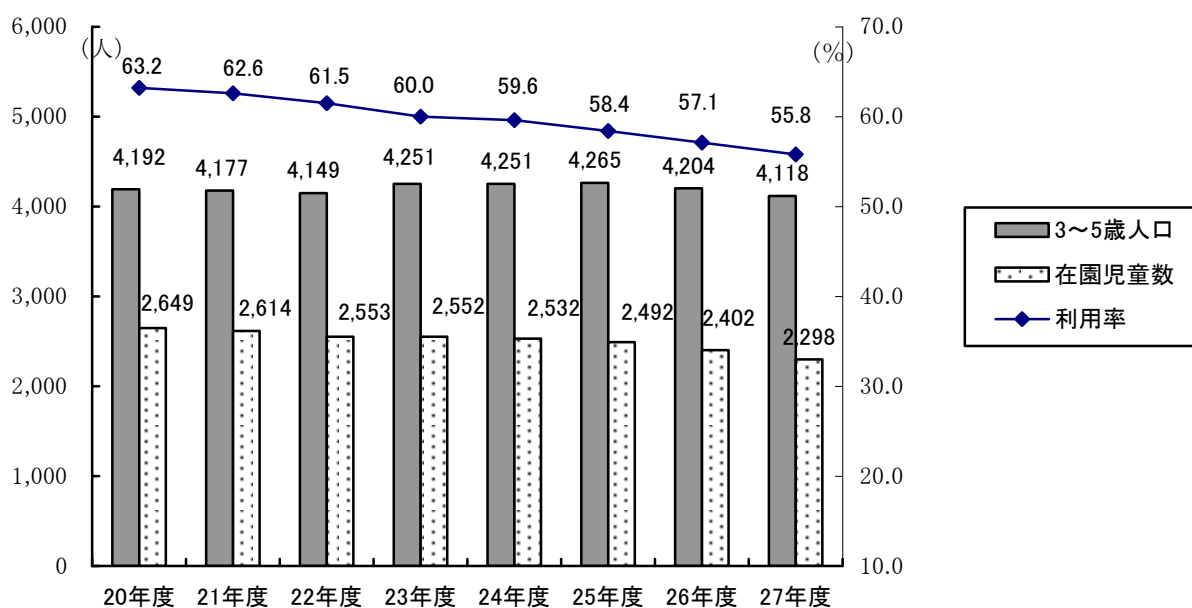
■ 表5 幼稚園の定員数・在園児童数等の推移 ■

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
園数(園)	23	23	23	23	23	23	23	23
定員(人)	3,986	3,996	3,996	3,996	3,926	3,826	3,826	3,826
在園児童数(人)	2,649	2,614	2,553	2,552	2,532	2,492	2,402	2,298
3～5歳人口(人)	4,192	4,177	4,149	4,251	4,251	4,265	4,204	4,118
入園率(%)	66.5	65.4	63.9	63.9	64.5	65.1	62.8	60.0
利用率(%)	63.2	62.6	61.5	60.0	59.6	58.4	57.1	55.8

※認定こども園含む

※入園率とは、定員に対する在園児童数の割合を、利用率とは、3～5歳人口に占める在園児童数の割合を示す。
資料：こどもみらい課 各年度5月1日現在

■ 図18 幼稚園の定員数・在園児童数等の推移 ■



資料：こどもみらい課
各年度4月1日現在

(5) 子どもの家（学童保育）の状況

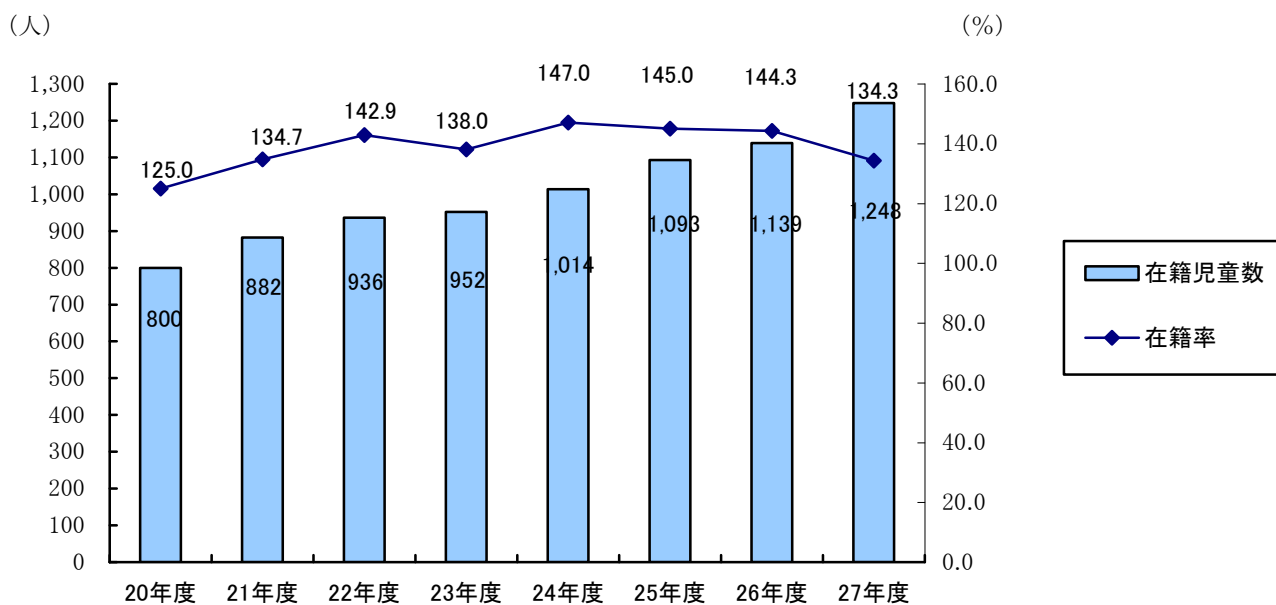
鎌倉市では、平成27年4月1日現在、子どもの家が16か所あり、在籍児童数は1,248人となっています。

■ 表6 子どもの家（学童保育）の実施箇所・在籍児童数 ■

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
実施箇所(所)	16	16	16	16	16	16	16	16
定員数(人)	640	655	655	690	690	754	789	929
在籍児童数(人)	800	882	936	952	1,014	1,093	1,139	1,248
在籍率(%)	125.0	134.7	142.9	138.0	147.0	145.0	144.3	134.3

※在籍率とは、定員に対する在籍児童数の割合を示す。
資料：青少年課 各年度4月1日現在

■ 図19 子どもの家（学童保育）の在籍児童数と在籍率の推移 ■



資料：青少年課
各年度4月1日現在

5 子ども・子育てをめぐる問題の動向

(1) 子ども・子育てをめぐる相談件数（こどもと家庭の相談室相談状況）（鎌倉市）

平成17年4月に「こどもと家庭の相談室」を開設し、子どもと家庭の福祉に関する第一義的窓口として相談にあたっています。

■ 表7 こどもと家庭の相談室 新規相談取扱状況 ■

(1) 新規相談件数

(件)

相談区分	相談内容	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
虐待相談	子どもを叩いてしまうなど、虐待に関する相談。虐待の通告や情報提供などを含む。	206 (45%)	141 (35%)	167 (35%)	153 (40%)	164 (43%)
養護相談	何らかの事情で子どもを育てられない等の相談。	40 (9%)	32 (8%)	84 (18%)	29 (8%)	23 (6%)
保健相談	病気や発達、精神保健に関する相談。	2 (0%)	8 (2%)	7 (1%)	3 (1%)	0 (0%)
障害相談	障害や発達の遅れなどに関する相談。	10 (2%)	6 (1%)	15 (3%)	5 (1%)	8 (2%)
育成相談	不登校や家庭内暴力、引きこもり、しつけに関する相談。	129 (28%)	127 (31%)	120 (25%)	143 (37%)	140 (37%)
非行相談	触法行為やぐ犯行為についての相談。	1 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	2 (1%)	0 (0%)
その他	上記のいずれにも該当しない相談。	70 (15%)	93 (23%)	77 (16%)	51 (13%)	45 (12%)
合計		458	407	471	386	380

(2) 虐待相談の内訳

(件)

虐待区分	虐待内容	平成26年度	割合
身体的虐待	叩く、殴る、蹴る、激しく揺さぶる、火傷を負わせるなど	41	25%
ネグレクト	家に閉じこめる、食事を与えない、ひどく不潔にする、保護者以外の同居人による虐待を放置するなど	30	18%
心理的虐待	言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの前でDVを行なうなど	92	56%
性的虐待	性的行為の強要、性器や性行を見せる、ポルノグラフィの被写体にするなど	1	1%
合計		164	

資料：こども相談課
各年度決算値

(2) 教育相談・青少年相談件数（教育センター）

■ 表8 教育センター相談室利用者数 ■

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
相談人数（新規）（人）	315	305	313	288	292	288	322
月毎の相談人数（人）	782	779	909	894	816	872	912
延べ相談件数（件）	2,138	1,775	2,170	2,195	2,096	2,685	2,533
延べ相談件数のうち訪問件数（件）	158	105	188	152	182	181	147

